

第3学年社会科学学習指導案

令和6年2月8日（木）第5校時

1 単元名 越谷市のうつりかわり

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年目標(1)(2)(3)、内容(4)及び内容の取扱い(4)に基づいて設定したものである。学習指導要領には、次のように示されている。

目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

内容

(4) 市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

内容の取扱い

(4) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(イ)の「年表などにまとめる」際には、時期の区分について、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げること。

イ イの(ア)の「公共施設」については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げること。その際、租税の役割に触れること。

ウ イの(ア)の「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。

越谷市が今の形へと編成されたのは、戦後の村町合併の時期である。1954（昭和29）年に2町8ヶ村が合併し越谷町となり、翌年に草加町の川柳村の一部が越谷町に編入したことで、今の形が完成した。1958年に市制施行により、人口4万8318人で越谷市が成立した。

越谷市成立後、1960年には人口が5万人を突破し、地下鉄日比谷線が北越谷駅まで相互乗り入れする等、首都圏のベッドタウンとして発展してきた。1967年に、国道4号が全線開通。1973年には、武蔵野東線（現在のJR武蔵野線）が開通。越谷貨物ターミナル駅も同時に完成し、南越谷駅が開業。この時期は人口が急激に増加し、1967年に10万人を突破すると、4年後の1973年には15万人を突破。続けて5年後の1978年には20万人を突破した。人口増加に伴い、小中学校が次々に開校。1967年から1978年までの約10年間で14の小中学校が開校した。急激な人口増加に伴い、都市化が進み、家や商業施設が増設される等土地利用の様子が大きく変化した。

その後、急激な人口増加の傾向は落ち着くが、それでも1979年～2000（平成12）年の間で10万人ほど増加し30万人を突破。この時期に、1981年の埼玉県道浦和越谷線の使用も始まっている。また、公共施設としては、1987年に児童館コスモス、2001年に科学技術体験センターミラクルなどの生涯学習施設や各地区に公民館が次々に増設されていった。

2000年から現在にかけて、人口は微増傾向を辿り、2022（令和4）年は34万4674人。越谷市によると、この年をピークに減少傾向を辿ると予測されている。（越谷市『越谷市の現状と課題』p.19より）この時期は、1999年に越谷レイクタウン特定土地区画整理事業が始まり、2008年にイオンレイクタウン、越谷レイクタウン駅が完成。2004年以来、東埼玉道路の拡張が進み、レイクタウン周辺の都市化が進んでいる。

このように人口の推移を軸に越谷市を見てみると、約20年前後で区分することができる。「急激な人口増加の時期（1958～1978年）」「人口増加の時期（1979～2000年）」「人口微増の時期（2001～2022年）」の3つである。それらを整理すると、次の**表1**のようにまとめることができる。このことを元に、学習指導要領（以下要領）と照らし合わせて、単元を構想していく。

時期	人口	交通	主な公共施設	土地利用
A「急激な人口増加の時期」 1958年～1978年	約5万人から 約20万人へ	国道4号線開通 武蔵野線開通	小中学校が急増	都市化が進み、住宅地や商業施設が一気に広がる
B「人口増加の時期」 1979年～2000年	約20万人から 約30万人へ	浦和越谷線開通、 その後国道へ	コミュセン完成 生涯学習施設増設 図書館増設	住宅地や商業施設がだんだんと広がる
C「緩やかな人口微増の時期」 2001年～2023年	約30万人から 約34万人へ	東埼玉道路開通	公民館増設	レイクタウン周辺も都市化

表1 越谷市のうつりかわり

本単元は、要領の内容(4)にあるように、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具など複数の社会的事象に着目して「市や人々の生活の様子の移り変わりを理解する」ことが求められる単元である。そのため、教材としては**表1**に示したようにA、B、Cの3つの時期に分けて扱い、複数の社会的事象の変化を相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の変化の様子を結びつけたりして、越谷市が都市化していく変化の傾向を考えていけるようにしていく。

また、要領の内容の取り扱いにあるように元号を用いた言い表し方を取り上げたり、租税の役割に触れたりするとともに、少子高齢化や国際化に触れてこれからの市の発展について考えることができるように配慮する必要がある。市の発展については、越谷市は今後人口が減少へ向かう予測であること、少子高齢化が進んでいること、それに伴い農業の担い手が不足していくこと、外国人の人口が増えていくことなどを取り扱う。それらに対する市の対策として、バス路線の拡張（歩いて暮らせる都市づくりの推進）、地場農産物利用促進事業、市民ガイドブックの多言語

化や越谷国際フェスティバルの開催などが挙げられる。このような社会に見られる課題についての市の対策を調べ、市や人々の生活の移り変わりの理解を踏まえて、3年生なりにどのように移り変わっていくとよいかを考察することができるよう、指導の仕方を工夫していく必要がある。

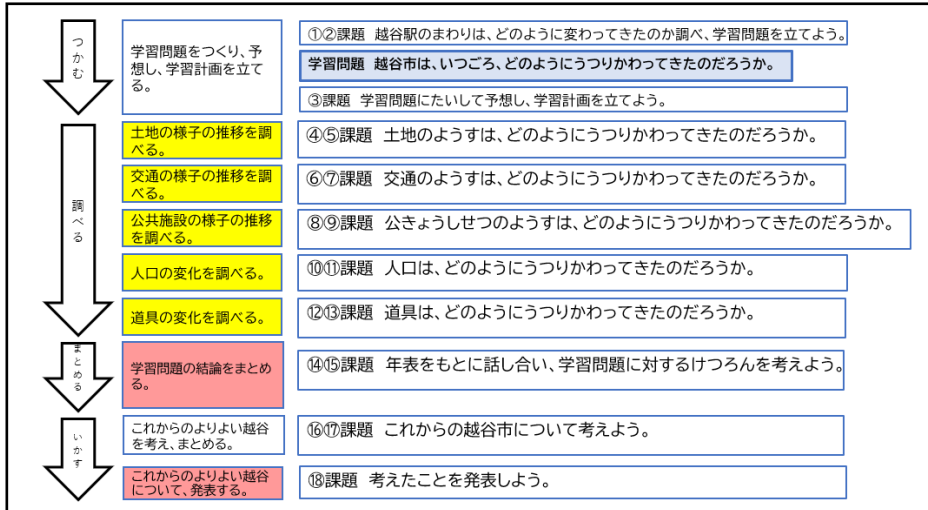
(2) 児童観

※省略

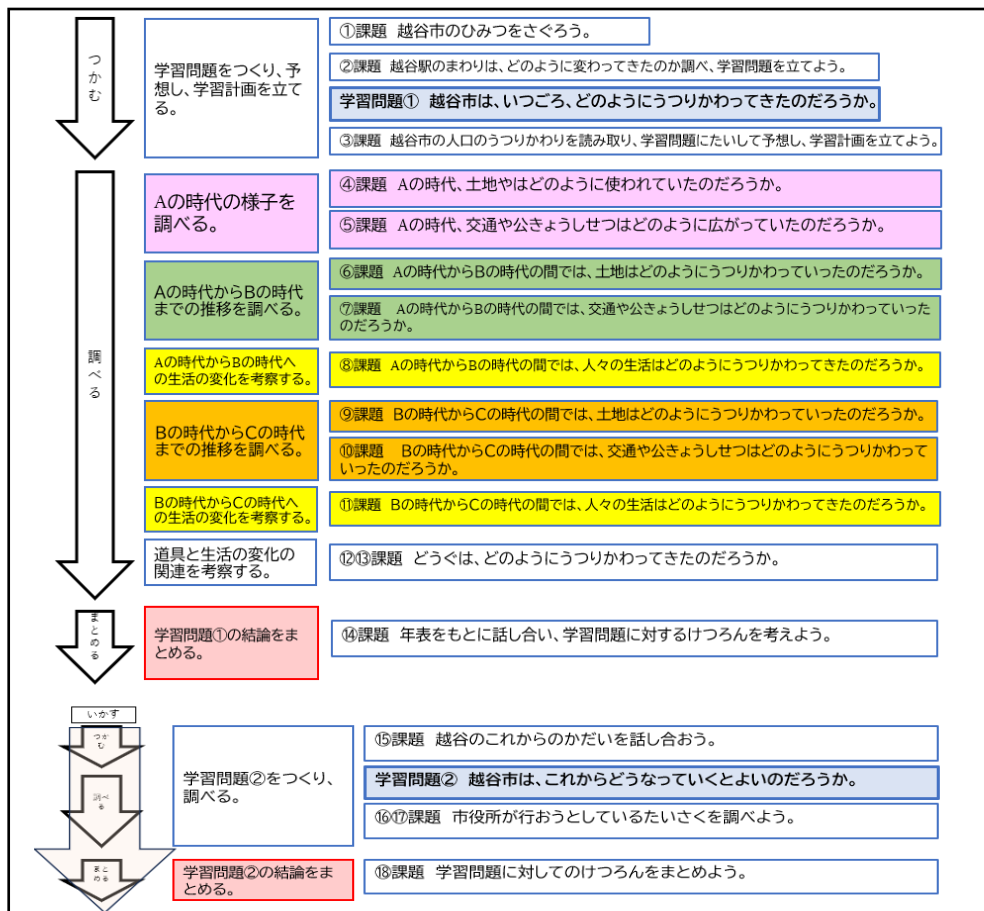
(3) 指導観

児童の実態調査を踏まえると、変化の影響を相互に関連付けること、社会生活上の意味を考えると、時間的な区切りを認識することの3つが達成できるよう指導の方法を工夫する必要がある。そこで大きく2つ、指導法を工夫していく。

第1に、学習過程を工夫する。具体的には、図1に示すような、現在一般的に行われている学習過程から、図2で示すような学習過程へと変更する。



↑ 図1 一般的に行われている本単元の学習過程（「視点」ごとに学ぶ）



↑ 図2 本研究における学習過程（「時代」ごとに学ぶ）

現在、一般的に行われている学習過程では、土地の様子や交通の様子等、社会的事象の「視点別」に1時間ずつ設定し、時代ごとの資料を提示して見比べることができるようにすることで、移り変わりを理解する方法が取られてきた。しかし、児童の実態から、視点ごとに学んだ事象同士を関連付けることや生活の変化の意味を考察することは難しいと考えられる。それらの考察なしに学習が進むと、学習問題の結論が、視点ごとに理解した内容を単に羅列したものになる可能性がある。そのため、学習過程においては次の2点を工夫する。

1点目は、人口を軸に単元を構成する。単元の初めに人口の推移を捉え、その後は他の視点の推移と人口の推移を繰り返し関連付けるようにする。そうすることで、徐々に児童自らが時期の違いに着目して、事象同士の関係を考察し、「関連付ける」ことができるようになることを考える。

2点目は、1時間ずつの学習内容を「視点別」ではなく、「時代別」に整理する。単元の前半は、1時間で1つの時代を扱うようにする。例えば、第4時は「時期A」の土地の様子をじっくりと読み取る。そして、人口の様子と関連付ける。そうすることで、「人口が少なかったときは、まだ店や住宅が少なく、田や畑が多い。」ことに気付くことができる。続く第5時では「時期A」の交通や公共施設の広がりの様子を読み取る。そして、同じく人口の様子と関連付ける。そうすることで、「人口が少なかったときは、まだ大きな道路や駅の数、公共施設が少ない。」ことに気付くことができる。そして、第6時や第7時で「時期B」を扱う。この時、児童が「時期A」と「時期B」の違いに着目しようとしている様子が見られた場合は、それらを見比べる活動を行い、「人口がだんだん増えたときに、店や住宅、大きな道路が増えた。」と考えることができるようにしていく。その後、第8時で、「時期A」と「時期B」の移り変わりをまとめて、それらの変化が生活にどのような影響を及ぼしたかを考察する活動を取り入れる。その後、同じように「時期C」を扱う。そうすることで、変化の影響を相互に関連付けることや、社会生活上の意味を考察することができることを考える。

第2に、ワークシートを工夫する。具体的には、**図3**、**図4**に示すようなワークシートを活用する。ワークシートには、全部で3点の工夫を入れ込んだ。

1点目は、時代区分を3つとして、それぞれ人口がどのように変化したかをメインに時期の名前をつけていることである。この名前は、第3時に児童と一緒に話し合っただけでも考えられる。そうすることで、児童は今、どの時期を学習しているのかを確認しながら調べたり、考えたりすることができる。特に、学力的に下位の児童にとっては、年表の構造をつかみづらいことが考えられる。そのため、今どの時期を学習しているのかを、確認していくことが大切である。また、元号を入れることで、そのような言い表し方があることにも触れるようにする。

2点目は、人口の推移を棒グラフで表し、その下に視点ごとにまとめる欄をつくったことである。そうすることで、事象同士を「関連付ける」ことがしやすくなると考えられる。

3点目は、時期Aから時期Bの推移、時期Bから時期Cの推移、時期Aから時期Cの推移の考察を記述する欄をそれぞれ設けたことである。児童はそれまでに調べて得た認識が、上に記述されているため、その記述を手掛かりに考察することができると考えられる。そのような考察を経て、「移り変わりを理解する」ことができると考えられる。

以上のように、学習過程とワークシートを工夫することで、全ての児童が、変化の影響を相互に関連付けたり、社会生活上の意味を考えたり、時間的な区切りを認識したりして、複数の社会的事象に着目して「移り変わりを理解する」ことや「関連付ける」ことができるようにしていきたい。

		A の時代	B の時代	C の時代																														
せいねき		1958年～1979年	1980年～2000年	2001年～2023年																														
元号		昭和 (～1988年)	平成 (1988年～2019年)	令和 (2019年～)																														
越谷市の様子のうつりかわり	人口	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fce4d6;"> A 人口ぐーんとふえた時代 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e2efda;"> B 人口だんだんふえた時代 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4;"> C 人口ちょっとふえた時代 </div> </div> <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; text-align: center;"> <caption>越谷市の人口推移 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>昭和35 (1960)</td><td>49,460</td></tr> <tr><td>昭和40 (1965)</td><td>70,600</td></tr> <tr><td>昭和45 (1970)</td><td>131,887</td></tr> <tr><td>昭和50 (1975)</td><td>190,079</td></tr> <tr><td>昭和55 (1980)</td><td>218,817</td></tr> <tr><td>昭和60 (1985)</td><td>248,435</td></tr> <tr><td>平成2 (1990)</td><td>281,623</td></tr> <tr><td>平成7 (1995)</td><td>296,426</td></tr> <tr><td>平成12 (2000)</td><td>308,047</td></tr> <tr><td>平成17 (2005)</td><td>317,033</td></tr> <tr><td>平成22 (2010)</td><td>326,981</td></tr> <tr><td>平成27 (2015)</td><td>334,693</td></tr> <tr><td>令和2 (2020)</td><td>336,800</td></tr> <tr><td>令和4 (2022)</td><td>336,800</td></tr> </tbody> </table>			年	人口	昭和35 (1960)	49,460	昭和40 (1965)	70,600	昭和45 (1970)	131,887	昭和50 (1975)	190,079	昭和55 (1980)	218,817	昭和60 (1985)	248,435	平成2 (1990)	281,623	平成7 (1995)	296,426	平成12 (2000)	308,047	平成17 (2005)	317,033	平成22 (2010)	326,981	平成27 (2015)	334,693	令和2 (2020)	336,800	令和4 (2022)	336,800
	年	人口																																
	昭和35 (1960)	49,460																																
	昭和40 (1965)	70,600																																
昭和45 (1970)	131,887																																	
昭和50 (1975)	190,079																																	
昭和55 (1980)	218,817																																	
昭和60 (1985)	248,435																																	
平成2 (1990)	281,623																																	
平成7 (1995)	296,426																																	
平成12 (2000)	308,047																																	
平成17 (2005)	317,033																																	
平成22 (2010)	326,981																																	
平成27 (2015)	334,693																																	
令和2 (2020)	336,800																																	
令和4 (2022)	336,800																																	
土地のつかい方	<p>④・ほとんど田んぼ。 ・どろにそって、家やお店があるけど、全体では少ない。 ・城ノ上小のまわりは、全て田んぼだった。</p>	<p>⑥・田んぼや畑はへった。 ・家やお店がまんなかあたりに広がった。 ・城ノ上小のまわりは、まだほとんど田んぼ。</p>	<p>⑨・田んぼや畑は西と東に少しだけ。 ・家やお店はすごく広がった。 ・城ノ上小のまわりにも家やお店がふえた。 ・レイクタウンのまわりにも家やお店がふえた。</p>																															
交通のようす	<p>⑤・鉄道は南北に東ぶせんが1本。 ・駅の数は4つ。 ・大きなどろは1本。</p>	<p>⑦・鉄道はむさしの線ができて、2本にふえた。 ・駅の数が6つにふえた。 ・大きなどろが4本にふえた。</p>	<p>⑨・鉄道は2本のまま。 ・駅の数が7つにふえた。 (レイクタウン駅ができた。) ・大きなどろが5本にふえた。</p>																															
公共しせつ	<p>⑤・市役所はあるけど、小さい。 ・小学校は10こ。</p>	<p>⑦・市役所が大きくなった。 ・小学校は29こ。 ・市立病院やそうごう体育館やコミュニティセンや市立図書館や市民きゅうじょうができた。</p>	<p>⑨・市役所がさらに大きくなった。 ・城ノ上小ができて小学校は30こにふえた。 ・保けん所ができた。 ・公民かんや老人ホームがふえた。</p>																															

↑ 図3 ワークシートの工夫 (児童の記述例)

うつりかわりのエピソードから考えたこと

AからBのうつりかわり

⑧ 人口が5万人から20万人までふえて、家やお店や公共しせつがふえたり、交通がべんりになった。だからきっと、車でお買い物に行きやすくなって、生活がべんりでゆたかになった。

BからCのうつりかわり

⑪ 人口が20万人から34万人までふえて、レイクタウンのまわりで家や道ろがふえた。レイクタウンにお客さんを集めるために、交通をべんりにしたのかなと思った。また、城ノ上小ができて、城ノ上小のまわりも人が住むようになって、家がふえたのかなと思った。

学習問題① 越谷市は、いつごろ、どのようにうつりかわってきたのだろうか。

3年 _____ 組 _____ 番 名前 _____

学習問題① にたいする予想

③ 人口がすごくふえた時に、たてものがたくさんふえたのではないか。学校とかもその時にふえていそう。

学習問題① にたいする結論

越谷市は、人口ぐーんとふえた時代からだんだんふえた時代に、家やお店や公共しせつがふえて、交通がべんりになった。また、人口がだんだんふえた時代からちょっとふえた時代に、レイクタウンや城ノ上小ができて、そのまわりも家やお店がふえたり、交通がべんりになったりした。今では、東京にしごとやお出かけがしやすく、レイクタウンには車や電車でたくさんのおとずれるような市になった。

↑図4 ワークシートの工夫（児童の記述例）

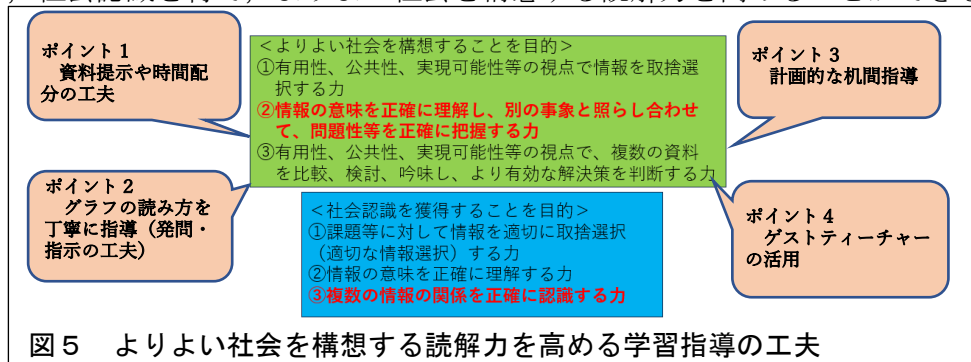
(4) 研究課題との関わり

研究主題 よりよい社会を構想する読解力を高める学習指導の研究

「よりよい社会」とは、社会に見られる課題をよりよく解決していこうとする社会と捉える。読解力とは、社会認識を獲得することを目的として、①課題等に対して情報を適切に取捨選択（適切な情報選択）する力、②情報の意味を正確に理解する力、③複数の情報の関係を正確に認識する力であると考え。「構想する読解力」とは、よりよい社会を構想することを目的として、①有用性、公共性、実現可能性等の視点で情報を取捨選択する力、②情報の意味を正確に理解し、別の事象と照らし合わせて、問題性等を正確に把握する力、③有用性、公共性、実現可能性等の視点で、複数の資料を比較、検討、吟味し、より有効な解決策を判断する力であると考え。これらは、社会的な見方・考え方を働かせ考察や構想をする際に必要な力（スキル）であると考えられる。そのため、要領が求める資質・能力と深く関わっており、小学校においては4年間を通して計画的に身につけることができるようにする必要がある。このような考えのもと、今年度3年生段階で、どの程度の力をつける必要があるか検討し続けてきた。その検討を通して、要領が求める3つの資質・能力を確実に身につけることができるよう指導してきた。

本単元では、様々な視点の社会的な事象を「関連付ける」ことが求められるため、社会認識獲得を目指す読解力③複数の情報の関係を正確に認識する力を高めることに重点を置く。また、「市の発展について考えることを配慮する」ことが求められるため、構想を目指す読解力②情報の意味を正確に理解し、別の事象と照らし合わせて、問題性等を正確に把握する力を高めることに重点を置く。

それらの力を高めるために、図5に示した次の4点を意識して指導していく。1点目は、資料提示の仕方や時間配分を工夫する。一人一台端末を効果的に活用して資料を配付することで、児童が自由に拡大できるよう施し、細部まで読み取ったり、複数の資料を画面上で並べることで、資料から取り出した情報同士の関係を正確に認識したりすることができるようにする。また、資料の一部を隠して提示することで、見方・考え方を働かせて予想することができるようにする。そして、資料過多にならないよう配慮し、1枚を読み取る時間を十分にとるよう気を付ける。2点目は、グラフの読み方を前単元（「越谷の安全を守る」）と同じように丁寧に指導する。特に人口の棒グラフは、表題（タイトル）、出典、縦軸、横軸、数量の大小や変化の傾向を読み取るように、発問や指示を工夫する。3点目は、机間指導を計画的に行う。特に学力低位の児童に対しては、丁寧に資料の読み方を指導して、少しずつ自力で読み解くことができるようにする。また、複数資料の関係を捉えた後に、市の課題に気付くことができるよう助言することが大切である。4点目は、ゲストティーチャーを活用する。市の農業振興課の方を呼んで質問する機会を与えることで、ホームページの内容等を読んだだけでは知ることのできない知識を得ることができるようにして、農業の課題を正確に把握することができるようにする。これら4点を意識して指導することで、社会認識を得て、よりよい社会を構想する読解力を高めることができるようにしていきたい。



3 単元の目標と評価規準

(1) 目標

越谷市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料を活用したりして調べて年表などにまとめ、時期ごとに比較・関連付けて変化の傾向や関係を考えることで、市や人々の生活の様子が時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解することができるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いについて，聞き取り調査をしたり地図などの資料などで調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，市や人々の生活の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを年表や文などにまとめ，市や人々の生活の様子は，時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解している。</p>	<p>①交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いに着目して，問いを見出し，市や人々の生活の様子について考え表現している。</p> <p>②交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの変化の傾向を相互に関連付けたり，市の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして，市の人々の様子や生活の変化を考え，適切に表現している。</p> <p>③これからの市の発展について考え，表現している。</p>	<p>①市の様子の移り変わりについて，予想や学習計画を立てたり，学習をふり返ったりして，学習問題を追究し，解決しようとしている。</p> <p>②学習したことをもとに，これからの市の発展について考えようとしている。</p>

4 単元の指導計画・評価計画（18時間扱い）「学習活動・学習内容」の○数字は時間を表す。

過程	○学習活動 ・学習内容	【評価の観点】 内容<方法>	資料等
つ	<p>○太枠は，課題やまとめ，ふりかえりの例</p> <p>①3つの写真や2つの地図をそれぞれ読み取って比較し，気付いたことを話し合う。</p> <p>課題 越谷市のひみつをさぐろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 越谷市ができる前は，2町8ヶ村に分かれていたこと 2町8ヶ村が，現在の市章に表されていること 自分たちの住んでいるところは，昔は増林村と呼ばれていたこと <p>まとめ 越谷市は，昔は2つの町と8つの村に分かれていた。また，城ノ上小があったところは，増林村とよばれていた。</p>	<p>【知・技①】</p> <p>越谷市は昔，2町8ヶ村に分かれていたことを理解している。</p> <p><発言・ノート></p>	<p>写真</p> <ul style="list-style-type: none"> 越谷駅上空の時代の異なる3つの写真 <p>地図</p> <ul style="list-style-type: none"> 市制施行前 現在 <p>市章</p>
か	<p>②3つの写真を比較し，気付いたことを話し合っ，問いをもち，学習問題を立てる。</p> <p>課題 越谷駅のまわりは，どのようにかわってきたのか調べ，学習問題を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> だんだんと高い建物が増えてきたこと 	<p>【思・判・表①】</p> <p>交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いに着目して，問いを見出し，</p>	<p>写真</p> <ul style="list-style-type: none"> 越谷駅周辺の時代の異なる3つの写真
む			

つ か	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだんと通る車の数が増えてきていること ・ほかにも、人や家、お店、公園、道路の数が増えてきているのではないかと、等と問いをもつこと ・学習問題を考えること <p>学習問題① 越谷市は、いつごろ、どのようにうつりかわってきたのだろうか。</p>	市や人々の生活の様子について考え表現している。 <発言・ノート>	地図 ・一学期に学習した土地利用の図等
む	<p>③グラフを読み取って、前時に学習した内容と関連付けながら学習問題に対して予想し、学習計画を立てる。</p> <p>課題 越谷市の人口のうつりかわりを読みとり、学習問題にたいしてよそうし、学習計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越谷市の人口はだんだんと増えてきていること ・急激に人口が急に増えた時期（時期A）、だんだんと増えた時期（時期B）少しずつ増えた時期（時期C）の3つに分類できること ・何をどのように調べるか計画を立てること <p>ふりかえり 越谷市は、人口がすごくふえた時があることが分かりました。その時に、たてもものがたくさんふえたのではないかとよそうしました。</p>	【態①】 市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を追究し、解決しようとしている。<発言・ノート>	棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり
調 べ る	<p>④写真や地図を読み取って、時期Aの土地利用の様子を調べる。</p> <p>課題 Aの時代、土地はどのように使われていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどが田や畑に使われていたこと ・旧日光街道沿いは家や店が集まっていること ・自分たちの住んでいるところは、全て田が広がっていること <p>まとめ Aの時代、土地はほとんど田や畑に使われていた。また、城ノ上小のまわりは、全て田んぼだった。</p>	【知・技①】 必要な情報を集め、読み取り、時期Aの土地利用の様子を理解している。 <発言・ワークシート>	棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり 写真 ・航空写真 地図 ・土地利用の様子（時期A）
	<p>⑤写真や地図を読み取って、時期Aの交通や公共施設の広がりの様子を調べる。</p> <p>課題 Aの時代、交通や公共施設はどのように広がっていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北を東武鉄道が走っていること ・主な道路は1本で、鉄道と同じように南北にあること ・市役所はあるが、小さいこと ・小学校は10こあること <p>まとめ Aの時代、鉄道は1つあるが、大きな道は少ない。市役所はあるが、公民かんはまだない。</p>	【知・技①】 必要な情報を集め、読み取り、時期Aの交通や公共施設の広がりの様子を理解している。 <発言・ワークシート>	棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり 写真 ・航空写真 ・市役所 地図 ・交通や公共施設の様子（時期A）

調	<p>⑥写真や地図を読み取って、時期Bの土地利用の様子を調べ、時期Aから時期Bの土地利用の様子の変化を考察する。</p> <p>課題 Aの時代からBの時代の間では、土地はどのようにうつりかわっていったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家やお店が増えてきたこと ・田や畑が少なくなってきたこと ・自分たちの住んでいるところは、まだ田が多いこと <p>まとめ Bの時代、家やお店がふえてきて、田や畑が少なくなった。また、城ノ上小のまわりは、まだ田が多い。</p>	<p>【知・技①②】 必要な情報を集め、読み取り、年表にまとめることで、時期Aから時期Bの土地利用の様子の変り変わりを理解している。 <発言・ワークシート></p>	<p>棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり</p> <p>写真 ・航空写真</p> <p>地図 ・土地利用の様子(時期AとB)</p>
べ	<p>⑦写真や地図を読み取って、時期Bの交通や公共施設の広がりの様子を調べ、時期Aから時期Bの交通や公共施設の様子の変化を考察する。</p> <p>課題 Aの時代からBの時代の間では、交通や公きょうしせつはどのようにうつりかわっていったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西に武蔵野線が走るようになったこと ・大きな道路が増えてきたこと ・学校が増えてきたこと ・市役所が大きくなったこと ・市立病院など公共施設が増えてきたこと <p>まとめ Bの時代、鉄道は2本にふえたり、大きな道ろができた、学校がふえたりした。</p>	<p>【知・技①②】 必要な情報を集め、読み取り、年表にまとめることで、時期Aから時期Bの交通や公共施設の広がりの変り変わりを理解している。 <発言・ワークシート></p>	<p>棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり</p> <p>写真 ・航空写真 ・市役所</p> <p>地図 ・交通や公共施設の様子(時期AとB)</p>
る	<p>⑧写真や地図を比較したり、グラフを関連付けたりして、時期Aから時期Bの生活の変化を考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>課題 Aの時代からBの時代の間では、人々の生活はどのようにうつりかわってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が増えて、家やお店や学校などの公共施設、鉄道や駅、主な道路が増えていったこと ・お店が増えて生活が豊かになった、鉄道や道路などが増えて生活が便利になった等と考えること <p>まとめ 人口が5万人から30万人までふえて、家やお店や公しせつがふえたり、交通がべんりになった。だからきっと、車でお買い物に行きやすくなって、生活が楽しくなったのかなと思った。</p>	<p>【思・判・表②】 時期Aから時期Bの交通や公共施設、土地利用や人口の変化の傾向から、人々の生活の変化を考え、適切に表現している。 <発言・ワークシート></p>	<p>棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり</p> <p>写真 ・航空写真(GSI Maps)</p> <p>地図 ・土地利用の様子(時期AとB) ・交通や公共施設の様子(時期AとB)</p>
	<p>⑨年表や写真や地図を読み取って、時期Cの土地利用の様子を調べ、時期Bから時期Cの土地利用の様子の変化を考察する。</p>	<p>【知・技①②】 必要な情報を集め、読み取り、年表</p>	<p>年表 ・越谷市の公共施設</p>

	<p>課題 Bの時代からCの時代の間では、土地はどのようにうつりかわっていったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田んぼや畑はさらに減ってきたこと ・家やお店はさらに増えてきたこと ・城ノ上小のまわりにも家やお店が増えてきたこと ・レイクタウンのまわりにも家やお店が増えてきたこと <p>まとめ Cの時代、家やお店がさらにふえてきて、田や畑がさらに少なくなった。また、城ノ上小のまわりは、家屋やお店がふえてきた。</p>	<p>にまとめることで、次期Bから時期Cの土地利用の様子の変り変わりを理解している。 <発言・ワークシート></p>	<p>写真 ・航空写真 地図 ・土地利用の様子 (時期BとC)</p>
調 べ	<p>⑩写真や地図を読み取って、時期Cの交通や公共施設の広がり様子を調べ、時期Bから時期Cの交通や公共施設の様子の変化を考察する。</p> <p>課題 Bの時代からCの時代の間では、交通や公きょうしせつはどのようにうつりかわっていったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レイクタウン駅ができたこと ・大きな道がさらに増えてきたこと ・市役所がさらに大きくなったこと ・城ノ上小や保健所、公民館や老人ホームができたこと <p>まとめ Cの時代、駅や道、公共しせつがさらにふえていった。また、市役所がさらに大きくなったり、城ノ上小やほけん所、老人ホームなどができたりした。</p>	<p>【知・技①②】 必要な情報を集め、読み取り、年表にまとめることで、時期Bから時期Cの交通や公共施設の広がり様子の移り変わりを理解している。 <発言・ワークシート></p>	<p>棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり 写真 ・航空写真(今昔マップ) ・市役所 地図 ・交通や公共施設の様子(時期BとC)</p>
る	<p>⑪写真や地図を比較したり、グラフを関連付けたりして、時期Bから時期Cの生活の変化を考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>課題 Bの時代からCの時代の間では、人々の生活は、どのようにうつりかわってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口がさらに増えて、家やお店や学校などの公共施設、鉄道や駅、主な道路がさらに増えていったこと ・変化の大きさはAの時代からBの時代のほうが、大きいと判断すること ・レイクタウンができて生活が豊かになった、駅や道路などが増えて生活が便利になった等と考えること <p>まとめ 人口が30万人から34万人までふえて、レイクタウンのまわりで家や道がふえた。レイクタウンにお客さんを集めるために、交通をべんりにしたのかなと思った。また、城ノ上小ができて、城ノ上小のまわりも人が住むようになって、家がふえたのかなと思った。</p>	<p>【思・判・表②】 時期Bから時期Cの交通や公共施設、土地利用や人口の変化の傾向から、それらの関係や人々の生活の変化を考え、適切に表現している。 <発言・ワークシート></p>	<p>棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり 写真 ・航空写真(今昔マップ) 地図 ・土地利用の様子(時期BとC) ・交通や公共施設の様子(時期BとC)</p>

	<p>⑫⑬写真を読み取ったり、映像をみたり、実物を触ったりすることで、昔の道具の特色を捉え、時期AからCにかけての生活の変化を考える。</p> <p>課題 どうぐは、どのようにうつりかわってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗濯板、脱水は手作業の洗濯機、全自動洗濯機と、だんだんと自動で洗濯ができる道具へと移り変わってきたこと 道具が便利になるにつれて、人々の生活が豊かになっていったこと <p>まとめ どうぐは、だんだんとべんりになり、生活がゆたかになっていった。</p>	<p>【知・技①】 必要な情報を集め、読み取り、年表にまとめることで、道具の移り変わりと生活の変化を理解している。 〈発言・ワークシート〉</p>	<p>映像 ・昔のくらしと道具</p> <p>実物 ・洗濯板</p>
ま と め る	<p>⑭年表にまとめたことを基に話し合い、学習問題に対する結論を考える。</p> <p>課題 年表をもとに話し合い、学習問題に対するけつろんを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年表を基に話し合うこと 話し合ったことを基に学習問題の結論を考えること 人口が増えると、公共施設が増えることと 公共施設の増加は、税金の増加と関わりがあること 交通の拡大は、市の発展に役立っていったこと <p>学習問題①のけつろん 越谷市は、人口ぐーんとふえた時代からだんだんふえた時代に、家やお店や公共せつがふえて、交通がべんりになった。また、人口がだんだんふえた時代からちょっとふえた時代に、レイクタウンや城ノ上小ができて、そのまわりも家やお店がふえたり、交通がべんりになったりした。今では、東京にしごとやお出かけがしやすく、レイクタウンには車や電車でたくさんのおとずれるような市になった。</p>	<p>【思・判・表②】 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの変化の傾向を相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、市の人々の様子や生活の変化を考え、適切に表現している。 〈ワークシート〉</p> <p>【知・技②】 調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。 〈ワークシート〉</p>	<p>これまで活用してきた多様な資料</p>
つ か む	<p>⑮グラフを読み取って、これまで学習してきたことと関連付けることで、学習問題を立てる。</p> <p>課題 越谷市のこれからのかだいを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、越谷市の人口は減っていくと予想されていること 今後、越谷市は高齢者が増えると予想されていること 今後、越谷市は外国人の数が増えると予想されていること 田や畑はだんだんと減ってきていること 	<p>【態②】 これまでの学習を基に、これからの市の発展について考えようとしている。 〈発言・ノート〉</p>	<p>棒グラフ ・越谷市の人口のうつりかわり（今後の予測）</p> <p>地図 ・土地利用の様子(時期AとBと)</p>

	<p>まとめ 越谷市は、今後高れい者や外国の人がえる。また、田や畑は少なくなってきた。</p>		C)
	<p>学習問題② 越谷市は、これからどうなっていくとよいのだろうか。</p>		
調 べ る	<p>⑩⑪写真や地図を読み取ったり、映像を観たり、市役所の人の話を聞いたりして、これからの越谷市について考え、話し合う。</p> <p>課題 市役所が行おうとしているたいさくを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 越谷市の中には、バスが通っていない地域もあること 市役所の人たちは、バス路線を増やそうと計画していること 市役所の人たちは、外国人でも住みやすい街にするために、交流の場をつくったり、ガイドブックを多言語化したりしていること 市役所の人たちは、高校生と協力してYouTubeを活用することで、地場農産物の知名度を高めようとしていること <p>まとめ 越谷市は、高れい者のためにバスを広く使えるようにしたり、外国人のためにガイドブックをつくったり、地元のもの食べてもらえるようにせんでんしたりしている。</p>	<p>【態②】 これからの市の発展について考えようとしている。 〈発言・ノート〉</p>	<p>地図 ・バスの路線図</p> <p>写真 ・国際フェスティバルの様子</p> <p>実物 ・市民ガイドブック（5カ国語版）</p> <p>映像 ・地場農産物利用促進事業について</p> <p>GT ・農業振興課の方</p>
ま と め る	<p>⑫これからの越谷市について、考えたことをポスターに表現し、どの対策がより優先度が高いか考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> これからの市の発展について考えたことをポスターに表すこと 特にどの対策がより優先度が高いか考えること 	<p>【思・判・表③】 これからの市の発展について考え、表現している。 〈ポスター〉</p>	<p>これまで活用してきた多様な資料</p>

※ポスター例 学習問題②の結論



5 本時の学習指導（8/18時間）

(1) 目標

時期Aから時期Bの人口、交通、公共施設、土地利用などの変化の傾向から、人々の生活の変化を考え、適切に表現することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

主な学習活動 ・ 学習内容	・ 指導上の留意点 評価 〈方法〉	資料等	時間
1 児童の振り返りの記述の紹介を聞いて、前時までの学習を振り返る。 ・時期Aから時期Bにかけて、家や店、駅や道路、公共施設が増えていったこと等を確認すること	・ 時期Aから時期Bの変化の傾向が記述されている児童の振り返りを取り上げる。 ・ 時期Aから時期Bの時代を生きた架空の人物（サニー君※クラスのキャラクター）を提示することで、その時代に生きた人の立場で生活の変化を考える見通しをもつことができるようにする。	児童の記述 ・ 前時の振り返り 棒グラフ ・ 越谷市の人口のうつりかわり	2分 3分
課題 Aの時代からBの時代の間では、人々の生活は、どのようにうつりかわってきたのだろうか。			
3 交通、公共施設、土地利用の変化の傾向の中の1つの視点で、生活の変化を考え、架空の人物が話す言葉をノートに記述する。 ・ 下の記述例のような内容を考えること	・ 記述ができない児童には、ヒントカードをロイロノートで配付したり、机間指導で助言したりすることで、生活の変化を考えることができるようにする。	地図 ・ 土地利用の様子(時期AとB) ・ 交通や公共施設の様子(時期AとB)	7分
記述例(交通) ぼくが小学生のころのびよん時代(Aの時期)は、どうろがぜんぜんなかったから、遠くに行くのが大変だったよ。でも、大人になった今のびよんびよん時代(Bの時期)は、どうろが増えて、車で遠くまでいけるようになったんだよ。むさしの線もできたから、遠くまで行けるようになってべんりになったよ。		写真 ・ 国道4号の様子(時期AとB) ・ 市役所の様子(時期AとB) ・ 南越谷駅ができる前とできたころの様子(時期AとB)	
4 小グループで考えたことを伝え合い、ロイロノートで記述を重ね合わせ、その後全体で共有することで、生活の変化を3つの視点で捉え、関連付ける。(シェアタイム) ・ 家や店、駅や道路、公共施設が増えていったため、生活が豊かに便利になったこと	・ 3人で伝え合った後「つまり生活が…」に続く言葉を話し合うよう伝えることで、3つの視点の関係を考えることができるようにする。 ・ 全体で共有するとき、各視点ごとに1人ずつ発表させることで、全員が生活の変化を捉えることができるようにする。		15分

<p>5 交通、公共施設、土地利用などの変化の傾向から、人々の生活の変化を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田が減っても、その分店や道路ができて便利になった等と考えること ・鉄道ができて遠くまで行けて、いろいろな仕事につけるから大丈夫、等と考えること 	<ul style="list-style-type: none"> ・「田が減っても、サニー君の生活は豊かになったのか。」「サニー君の仕事はなくなったのではないか。」等と発問を工夫し、他の視点に着目して考えることができるようにする。 	<p>8分</p>
<p>6 本時のまとめを考え、ワークシートに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期AからBへの生活の変化の考察をまとめること 	<p>評</p> <p>時期Aから時期Bの人口、交通、公共施設、土地利用などの変化の傾向から、人々の生活の変化を考え、適切に表現している。 【思・判・表②】〈発言・ワークシート〉</p>	<p>5分</p>
<p>まとめ (ワークシート)</p> <p>人口が5万人から20万人までふえて、家やお店や公共施設がふえたり、交通がべんりになった。だからきっと、車で買い物に行きやすくなって、生活がべんりで豊かになった。</p>	<p>⇒B規準に達しない児童への支援方法</p> <p>ワークシートや本時に書いた自分のノート、板書、友達の記述をもとに、きめ細かく発問していくことで、人々の生活の変化を記述できるように助言する。</p>	
<p>7 本時の学習をふりかえり、考えたこと等をノートにまとめる。</p> <p>ふりかえり</p> <p>この時代の人たちは、どんどんいろいろなものができていって、すごく生活がべんりになったんだなと思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりの視点を示すことで、自分の学びの変容の自覚や、次時以降の学習意欲を高めることができるようにする。 	<p>5分</p>

板書案

課

びよん時代からびよんびよん時代の間では、人々の生活は、どのようにうつりかわってきたのだろうか。

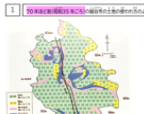


見

交通、公共施設、土地の中から1つ

・ 店がふえると生活は・・・

話

Aの時代

→ **Bの時代**

家や店がふえた。田や畑がへった。

・ お店がふえて、すごくべんりになったよ！
・ 人がふえたから、家もどんどんふえたんだよ！

べんり！

東西にむさしの線が通った。大きな道ろがふえた。

・ 車で遠くの店へ行けるようになったよ！
・ むさしの線ができて、遠くまで行けるようになったよ！

学校がふえたり、コミュニセンや市立図書かんができた。

ゆたか！

・ 人がふえたから、学校もすごくふえたよ！
・ どれもふえていって、図書館とかコミュニセンとか車でいけるようになったよ！

ま ワークシート